

Network



広島共立病院
院長
村田 裕彦

広島共立病院 地域連携ネットワークシステム 7月運用開始



広島共立病院は、2009年7月1日より地域連携ネットワークシステム（Kyoritsu-Net）の運用を開始致しました。このシステムでは、参加された医療機関様（かかりつけ医様）からインターネットの特殊回線 IPsec-VPN を使用して、同意が得られた患者様の当院電子カルテ記事が閲覧できます。より密な医療連携を行うのに役立つツールとして期待されます。

現在、「地域連携ネットワークシステム」と呼ばれるものには、様々な種類があります。予約をとるのに使うもの、オーダーリングデータを閲覧するもの、カルテを共有するもの、当院のようにカルテを参照するもの、等々です。国の事業で、いくつかのモデルシステムが実施、検討されましたが、広範囲に展開できるシステムは未だありません。

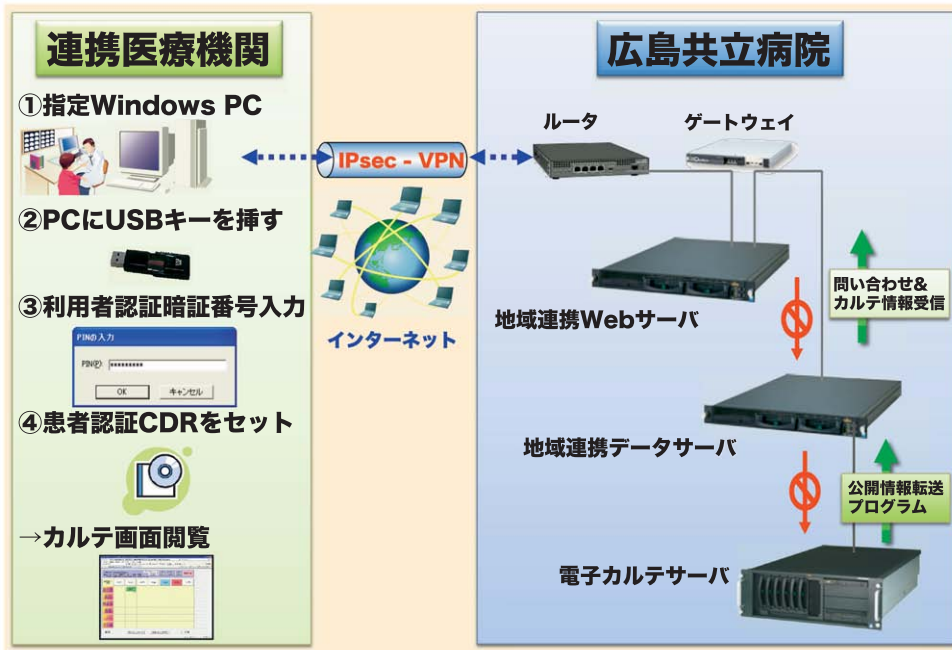
Kyoritsu-Net の実際の手順を紹介します（図参照）。まず、医療機関様の準備として、①インターネットを接続している閲覧用パソコン（Windows PC）を指定していただき、Winny や Share などのファイル共有ソフトがインストールされてなく、最新のウイルス対策ソフトがインストールされている必要があります。開始時に担当 SE がチェックさせていただきます。②機器認証の為に当院から発行する USB メモリー（USB キー）を挿入し、③利用者認証の為に暗証番号を入力することで、当院地域連携 Web サーバーと VPN 接続します。

患者カルテを開く為に、患者様側の準備として、④当院から発行する患者認証用 CDR（CDR キー）を受け取り、かかりつけ医様に渡していただく必要が有ります。これで患者様側の同意が成立したとみなします。

CDR キーを CD-ROM ドライブに入れ自動処理の実行後、当該患者様の電子カルテが閲覧できます。

カルテ記事は、医師記録、検査所見、看護記録、オーダーリング内容等で、データは翌日未明にサーバー転送しますので、閲覧できるのは前日までの記事になります。

お問い合わせ、申し込みは当院地域連携課（電話 879-1203 担当/斉藤）までお願いします。



(図) Kyoritsu-Net

当院での癌化学療法の実況

副院長 高永甲 文男

適正で安全な抗癌剤治療を行うために、医師、看護師、薬剤師、事務で構成された癌化学療法委員会にて定例会議を行い、各疾患別ガイドラインやEBMなどに基づいた治療法を確認後、電子カルテに投与方法・量・有効率・有害事象・費用などを登録し、治療の実際の手順を討議決定しています。

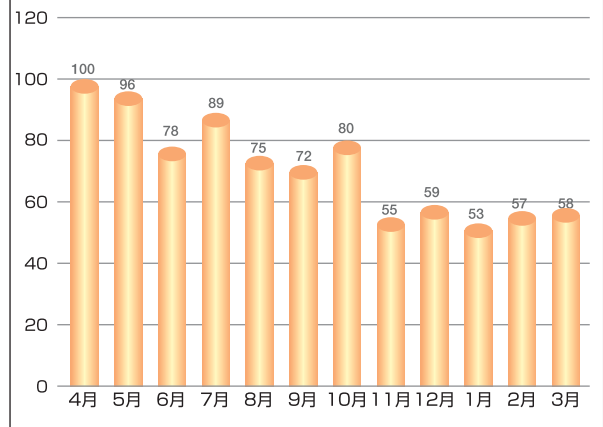
入院にて施行する場合は、持続点滴が必要な場合、急性のアナフィラキシー反応が予測される場合、急性心不全の可能性のある薬剤の初回投与、または入院医療の一環としての治療である場合に施行し、それら以外のほとんどは外来通院にて施行しています。昨年度外来の一部を癌化学治療専門室として改造し、テレビなどをそれぞれに取り付けたリクライニング可能なベッドを設置し、計7床を使って運用しています。

実際の治療にあたっては、担当医師より癌化学療法が必要な患者さんに現在の状態・治療法・有効率・有害事象・費用などについて説明し、その内容の説明同意書を差し上げて確認します。治療当日は、担当医師が診察を通して全身状態を把握し血液データなどを確認後電子カルテでオーダーし、毎回患者さんに実際の際与記録が記載された登録票を差し上げ確認します。オーダーに基づき薬剤師が登録された治療法を確認後、クリーンベンチで調合し、担当医が投与ルートを確認し血管からの漏出のないことを確認後、看護師が患者さんの状態を把握しながら薬剤を確認後投与します。治療終了後看護師が状態を把握し問題なければ帰宅していただきます。帰宅後も変わったこと気になることなどがあればまずは電話などで対応しています。

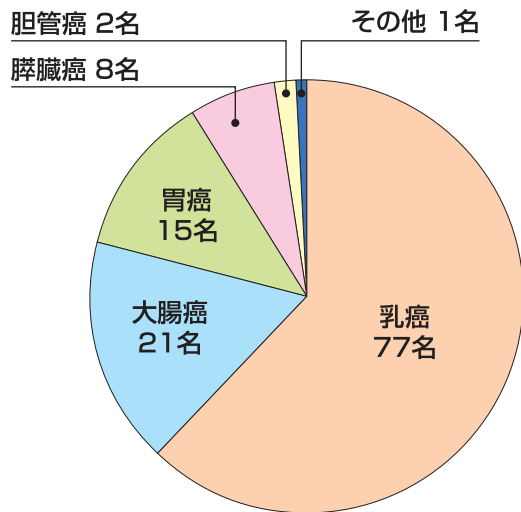
昨年度（2008年度）1年間の当院で施行された点滴による抗癌剤治療は、延べ総人数872人、月平均73人でした。癌腫別治療法による延べ人数は、乳癌77人、大腸癌21人、胃癌15人、膵臓癌8人、胆管癌2人、その他の癌1人でした。

最新の治療法の情報を入手し、チーム医療を通して患者さんに寄り添う医療をめざしていきたいと思ひます。

2008年度癌化学療法延べ人数



2008年度癌化学療法癌腫別延べ人数



●病棟紹介

5階病棟は整形外科、糖尿病疾患を中心とする内科、小児科、泌尿器科、耳鼻科の49床の混合病棟です。整形外科は大腿骨骨折や手や指に関する疾患を主として手術前後の急性期からリハビリテーションまで、内科は糖尿病の血糖コントロールや教育目的の入院、小児科は主として乳幼児の気管支炎・肺炎・胃腸炎、泌尿器科は前立腺生検などさまざまな患者さまの医療・看護にあたっています。患者さまの年齢層も100歳の超高齢者から生後1ヶ月の乳児まで幅が広いのも特徴です。また、リハビリテーションセラピスト・医療ソーシャルワーカー・栄養士など他職種とも連携をとり援助を行っています。

●小児科のプレパレーションの取組みを紹介します

プレパレーションとは、治療や検査を受ける子どもに対し、認知発達に応じた方法で病気、入院、手術、検査、その他の処置について説明を行い、子どもや親の対処能力（がんばろうとする意欲）を引き出すような環境および機会を与えることです。

当病棟に入院される患児は5歳未満の呼吸器疾患が多く、吸入処置を行うことが多いため、吸入が少しでも楽しく有効にできるようプレパレーションの視点を取り入れた工夫を行いました。吸入器に子どもの好きなキャラクターのカバーを取り付けました。吸入器具には見た目もかわいらしくビーズで飾りつけをし、振ると音もでるように工夫しました。また、吸入する時には患児に好きなシールを貼ってもらい、

終わると数種類の「ごほうびシール」から自分の好きなものを選んでいただいています。このように楽しみをつくることによって患児が怖がらずに吸入できるようになりました。このことにより御家族のストレスも軽減され、看護師も対応の際に笑顔が増えてきました。今年度はこの取り組みを土台に人形やおもちゃの聴診器を使用して、診察時の聴診の不安を取り除くための取り組みも始めました。

今年度5階病棟では受け持ち看護師を中心に患者さまとのかかわりを深め、日常の充実したケアや退院時指導、退院後訪問にも取り組んでいます。これからも看護部理念である、生命力の変化をよみ取り、「持てる力」を引き出す看護を目指していきます。

広島共立病院 5階病棟看護師長 森崎 久恵



▲プレパレーションの視点を入れた物品の数々



◀他職種の参加による患者のカンファレンス